

糸島市小中学校長会が、人権教育の手引き ～「がいじ」発言への対応と指導～を作成

人権教育の手引き～「がいじ」発言への対応と指導～を活用し、「がいじ発言」をなくし‘ともに生きる心’の育成に糸島市全小中学校で取り組みます。

○手引き作成の背景

➢「がいじ」発言は、学校の大きな教育課題

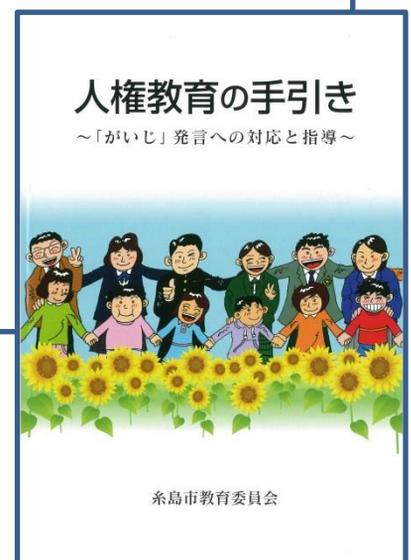
○手引きの作成

➢糸島市小中学校長会が、人権・同和教育担当者会のメンバーを中心とした「人権教育の手引き作成委員会」を組織し、自主的に作成

○手引きの活用の効果

➢手引きの糸島市内小中学校全教職員への配付と活用のための研修による教職員の人権感覚と指導力の向上
➢手引きを活用した糸島市内全小中学校において、統一した指導による『ともに生きる心』の育成

※個別具体の人権課題に対して、教職員の指導の指針となる手引きを作成・配付することは、他の市町村に例を見ない。



資 料

【がいじ発言とは】

- ・「がいじ」は、「ショウガイジ」という言葉を略してつくられた言葉であり、子どもたちは、人を誹謗中傷し、蔑み、嘲るとき、あるいは自分自身を卑下するときなどに使っている。
- ・「がいじ」という言葉は、固定観念や偏見に起因して、違いを蔑み、嘲る言葉であり、共に生きることを目指す人々の願いや存在を踏みにじる言葉であることから、『差別語』であるととらえている。
- ・傷つき苦しむ相手の立場に立って考えるとき、あるいは人権感覚豊かな人間関係を築こうとするとき、『けっしてつかえない・使ってはならない・なくすべき』言葉として指導を強化していかなければならない。

【「がいじ」と同様に使われる隠語】

ガイシャ 左ハンドル ポルシェ ベンツ ポイジ ハイジ バラ
シンショウ ハンザイシャ ガイジン ランランルー

【本手引きの特徴】

- ・ 本手引きは、「がいじ」発言を解消を目指すための教材等を体系的に整理しており、小学校1年生から中学校3年生に渡る9年間を見通した学習内容が配置されている。
- ・ 糸島市内の全小中学校で活用することにより、市内のどの小学校を卒業しても、同じ内容を学習して中学校に入学してくることになる。
- ・ 本手引きは、糸島市内小・中・高の人権・同和教育担当者のメンバーが中心となって作成したものであり、これまで各学校において実践された教材を持ち寄り吟味したうえで教材を選定した。
このことから、糸島市内の子どもたちの実態に応じた手引き書となっている。
- ・ 本手引き書を使い、教職員が十分な事前協議を行うことで、教職員自身の人権感覚を高めることが可能である。

○ 今後は、本手引きの活用に係る研修会や、授業研究会を実施し、手引きにもとづく実践の充実を図っていく。

【本手引きの内容と構成】

人権教育の手引き ～「がいじ」発言への対応と指導～

I 本手引きのねらい

- 1 障がいに関する正しい認識を培う
- 2 豊かな人間関係をつくるための言葉を身につけさせる
- 3 「がいじ」発言を重要な教育課題として受け止め、組織的に対応する

II 構成

- 1 人権教育の現状と課題
- 2 本市児童生徒における「がいじ」発言の状況
- 3 「がいじ」発言から見える教育課題
- 4 学校の指導体制
- 5 差別事象への対応と報告
- 6 具体的な指導
- 7 家庭・地域への啓発